2024年度　自己点検･評価報告書

提出日：　　2025 年　　7 月　　25 日

組織名：(　教務委員会　)

執筆者：(　　渡部　麻美　)

１．２０２４年度年次行動計画（到達目標）の振り返り＜各項目を具体的に記述のこと＞

①計画の取組み現状説明について（400 字程度）

（１）本学の教育プログラムである「リベラルアーツのためのデータリテラシー（DALLIA)」(以下、本教育プログラムとする）を数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度に申請するために、部会において申請書類の準備を行い、文部科学省に申請した。

（２）本教育プログラムの履修率を向上させるため、2024 年度開始時に 2023 年度以降の入学生に対して本教育プログラムの周知を行った。

（３）本教育プログラムの構成科目授業評価アンケートのデータに基づいて、本教育プログラムの学修成果および学生の理解度を確認した。

②点検・評価について（400 字程度）

（１）文部科学省の指定様式にしたがって申請書類とその他の必要資料を取りまとめ、2024 年度 5 月に文部科学省への申請を行い、2024 年 8 月に認定を受けた（資料 1)。

（２）2023 年度以降に入学した全学科の学生に対して、履修ガイダンスや e-pass 等で本教育プログラムを周知し、履修を推奨した（資料 2)。その結果、各学部および大学全体のプログラムの履修者数および履修率は以下の通りであった（資料 3)。

人間科学部 239 名（25%）
国際社会学部 147 名（15%）
合計 386 名（20%）

（３）本教育プログラムの構成科目の授業評価アンケートの結果を精査したところ、受講者は科目内容を概ね理解しており、受講者の大半が十分な学習成果を得ていた（資料 4)。

③改善方策及び改善計画について（400 字程度）

本教育プログラムの対象となる 2023 年度以降の入学生に対して、プログラム概要の説明と周知を行ったが、履修率は全体で 20%にとどまっている。本教育プログラムを学生にとってさらに履修しやすいものとするため、2024 年度以降の入学生に対してはより少ない科目でプログラムを構成することとした。この科目構成の変更については、既に文科省に変更届を提出している（資料 6)。今後はプログラムの構成科目を全学科の学生が履修できる科目群に位置づけることで、本教育プログラムの履修をさらに促していく。

④自己評価（「A：適切に実行している」「B：概ね実行している」「C：あまり実行していない」「D：実行していない」の 4 段階）

A：適切に実行している

【エビデンス（根拠資料）】
資料 1：ai_shinsei2024.pdf
資料 2：学生向け文書 2023 年度生,2024 年度生.pdf
資料 3：履修者等数の実績.pdf
資料 4：自己点検・評価.pdf
資料 5：ai_henko2024.pdf

※ 記述した項目に対しては、必ずエビデンス（根拠資料）を添付のこと。
※ 報告書及びエビデンスは、原則的にデータで提出のこと。ただし、エビデンスが冊子等の場合は、現物を提出のこと。

以上